

ラジオNIKKEI

マルホ皮膚科セミナー

2020年7月13日放送

「第70回日本皮膚科学会中部支部学術大会 ②

教育講演 2-1 アトピー性皮膚炎の悪化因子」

京都府立医科大学大学院 皮膚科

講師 峠岡 理沙

はじめに

アトピー性皮膚炎は、痒みを伴う湿疹がほぼ左右対称に生じ、年齢に特徴的な湿疹病変の分布を示すことが多く、慢性・反復性に湿疹を繰り返す疾患です。乳児期は、湿疹病変が頭、顔に始まりしばしば体にも出現し、幼児・学童期には、首、肘、膝などに湿疹が出現する傾向があり、成人期には顔面を含む上半身に湿疹の程度が強くなる傾向があります¹⁾。

皮膚の最外層には角質層があり、皮脂膜、角質細胞間脂質、天然保湿因子が存在しますが、健全な皮膚はそれらの因子により強いバリア機能を持ち、外的刺激や水分の蒸発を防いでいます。それに対し、アトピー性皮膚炎では、脂質や天然保湿因子のアミノ酸などの減少があり、角質層におけるバリア機能が低下していることが分かっています。例えば、約30%の患者に代謝産物が天然保湿因子のアミノ酸になるフィラグリンの遺伝子異常があることが報告されています²⁾。発症機序としては、このような皮膚バリア機能低下とアレルギーを起こしやすい素因などの遺伝的要因に、アレルゲンを含めたさまざまな刺激が加わって、炎症が生じ、アトピー性皮膚炎の症状が形成されると考えられています。

アトピー性皮膚炎の治療は、炎症を抑える薬物療法、バリア機能を改善させるスキンケア、そして、悪化因子対策の3点が基本になります¹⁾。アトピー性皮膚炎では、バリア機能が低下しており、アレルゲンなどのさまざまな因子の影響を受けるため、悪化因子の検索と対策はとても重要です。今回は、アトピー性皮膚炎の悪化因子の検索と対策について概説します。

さまざまな悪化因子

悪化因子には、アレルギー性、非アレルギー性のさまざまなものがあげられます³⁾。アレルギー性の悪化因子としてはダニ、ハウスダスト、花粉などの環境アレルゲンや、化粧品・外用薬などの接触アレルゲンがあり、非アレルギー性の悪化因子としては衣類や皮膚に残る汗などがあります。また、疲れや不規則な生活などにより、痒みなどが悪化することも経験します。

アトピー性皮膚炎の悪化因子

- ・アレルギー性
ダニ・ハウスダスト、ペット、花粉などの環境アレルゲン
化粧品・外用薬などの接触アレルゲン
- ・非アレルギー性
搔破
衣類、皮膚に残る汗、乳児の唾液など
不規則な生活

環境アレルゲンについて

アトピー性皮膚炎患者では、ダニ、ハウスダスト、花粉、ペット、真菌などの複数のアレルゲンに対する特異的 IgE 抗体が上昇する傾向があり、血清中特異的 IgE 抗体価測定やプリックテストを行い、感作の有無を確認します。そして、特異的 IgE 抗体価の上昇やプリックテストで陽性反応がみられる場合には、アレルゲンが曝露する環境で悪化のエピソードが実際にあるかどうかを問診などで確認します³⁾。

アトピー性皮膚炎の患者では、室内の塵中に存在するコナヒョウヒダニ、ヤケヒョウヒダニなどのヒョウヒダニ類に対する特異的 IgE 抗体が上昇する傾向があります。ダニに対するアレルギーがあると、塵が多い場所で蕁麻疹や結膜・鼻炎症状、喘息発作などの即時型アレルギー症状が出現する場合や、引っ越しや旅行、入院などによる居住環境の変化により湿疹病変が軽快または悪化するエピソードがみられる場合があります、そのような患者にはダニ対策を勧めます³⁾。ダニの減量のためには、床のフローリング化や掃除、寝具の日干しと吸引掃除、高密度繊維のベッドカバー・シーツの使用などがあり、ダニの量を有意に減少することが報告されています⁴⁾。しかし、このようなダニ対策は、アトピー性皮膚炎の症状に関しては有効と無効のいずれの報告もあります。ダニ対策の中には、経済的負担がかかるものがあるため、患者の状況に合わせたダニ対策を勧めていく必要があります。

ダニアレルゲン対策

室内	換気を行う 掃除機をかける 床をフローリングにする たたみ・じゅうたんを避ける 空気清浄機を使用する
寝具	日干しをして、よく乾燥させる 掃除機をかける 高密度繊維のベッドカバー・シーツを使う 毛布の使用を控えるか、掛布団の上に使う
その他	洗濯する エアコンを掃除する 掃除後に悪化する場合は、掃除の際に長袖の服とマスクを着用する

Tamagawa-Mineoka R, et al. Int J Mol Sci. 2020; 21: 2671.
舛岡理沙: エキスパートが答えるアトピー性皮膚炎。診断と治療社、東京、p.112, 2014

花粉アレルゲンについては、一部のアトピー性皮膚炎患者がスギ花粉により悪化するといわれています。好発部位は眼瞼や頬部であり、花粉飛散時期の外出時に湿疹や痒みが悪化するというエピソードがある場合には、外出時には眼鏡、マスクなどで花粉が皮膚に接触することを予防し、帰宅後に洗顔を行うように指導します。

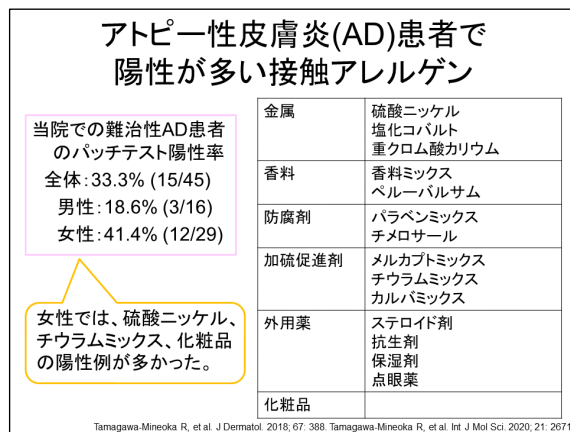
ペットについては、ペットをよく洗ったり、また寝室にはペットを入れないようにするなど、長い時間過ごす室内にペットの毛などが落ちにくいような工夫をすることが必要です。

接触アレルゲンについて

アトピー性皮膚炎患者では化粧品、外用薬などによるアレルギー性接触皮膚炎を合併している場合があります。特定の部位の湿疹が難治な場合には、詳細な問診および湿疹の分布により原因を推定し、パッチテストを行います。そして、パッチテストで陽性反応を示す化粧品や生活用品などがあった場合には使用を避けるように指導し、症状が改善するかを確認します。

接触アレルギーについては、当教室において外用治療で軽快しない難治性アトピー性皮膚炎患者に施行した

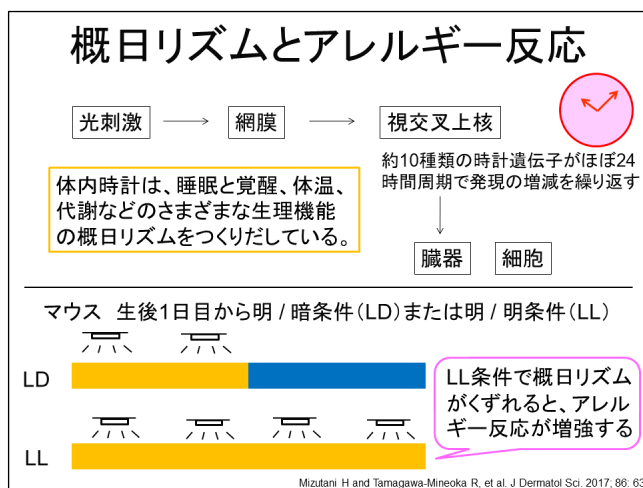
パッチテスト結果を集計し検討したところ、約30%の患者において1つ以上のアレルゲンに対し陽性反応がみられました⁵⁾。そして、そのパッチテストが陽性だった症例の半数がアレルゲンを含む製品、例えば、外用薬、点眼薬、保湿剤、ゴム製パフなどの使用を避けることにより、湿疹の改善を認めました⁵⁾。したがって、難治なアトピー性皮膚炎の症例にはパッチテストは有用であると考えられます。



非アレルギー性の悪化因子について

非アレルギー性の悪化因子については、物理的・化学的な刺激として、ナイロンタオルやウールなどの刺激性衣類などとの摩擦、洗剤や石鹸、シャンプー、リンスなどの洗浄液のすすぎ残しなど、さまざまな刺激が悪化因子になる可能性があります。肌触りのよい衣類を着用したり、洗浄液をしっかりと洗い流すことを指導して、それぞれの患者の生活に応じた指導を行います。また、発汗は体温調節や皮膚の保湿の機能があり、皮膚にとって重要な機能であると考えられます。ただし、皮膚に汗が残っていると、痒みが生じる場合がありますので、汗をかいたら早めにシャワーで流したり、ぬれタオルなどでやさしく拭き取ることが大切です。

また、不規則な生活などにより、痒みなどが悪化することも経験します。ヒトの睡眠と覚醒、体温、代謝などの生理機能には約24時間リズムで変動する概日リズムがあります。そして、近年、概日リズムの異常が生活習慣病など



の疾患の病態に関与していることが明らかにされてきています。アトピー性皮膚炎は夜間に痒みが増強することが多く、その病態に概日リズムが関与している可能性があります。われわれは、概日リズムと皮膚のアレルギー反応の関連性について検討するために、24時間ずっと明るい条件下にマウスを飼育して概日リズムを狂わせることにより、マウスの皮膚のアレルギー反応がどのように変化するのかを実験しました。結果は、概日リズムを狂わせると、アレルギー塗布による皮膚のアレルギー反応は増強することが明らかになり、概日リズムは皮膚のアレルギー反応に深く関与していると考えられます⁶⁾。したがって、シフトワークや不規則な生活をするとう痒みや湿疹の悪化が起こりやすくなる可能性があり、できるだけ規則正しい生活を行うように指導することも大切です。

文献

- 1) 加藤則人, 佐伯秀久, 中原剛士ほか. 日皮会誌 126 : 121, 2016.
- 2) Palmer CN, Irvine AD, Terron-Kwiatkowski A, et al. Nat Genet 38: 441, 2006.
- 3) Tamagawa-Mineoka R, Katoh N. Int J Mol Sci 21: 2671, 2020.
- 4) 峠岡理沙. エキスパートが答えるアトピー性皮膚炎, 診断と治療社, 東京, p.112, 2014
- 5) Tamagawa-Mineoka R, Masuda K, Ueda S et al. J Dermatol 42: 720, 2015.
- 6) Mizutani H, Tamagawa-Mineoka R, Minami Y, et al. J Dermatol Sci 86: 63, 2017.